

平成23年度 福井型コミュニティ・スクール推進事業実施報告書
地域に生きる「はぎのっこ」・地域と歩む萩野小
 越前町立萩野小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	4回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	9回(のべ) 9日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	36人
授業ボランティア(含:低ボラ)	52人
登下校支援ボランティア	652人
その他(読み聞かせ、花壇整美)	85人

(3) 特色ある活動

テーマ「心の教育の充実」

事例「キビ栽培体験活動」

(1) 野菜を栽培、収穫する体験

1・2年生は、学校園で織田地区特産のキビを栽培、収穫している。毎年行っているため、全児童が体験している。児童は月ごとに次のような活動を行っている。

5月・・・畑作り、キビの種まき(毎日水やりなどの世話、観察カードの記入)

6月・・・キビの苗の植え替え(植え替えの方法を学習、生長の変化を記録)

7・8月・・・天候や生長にあった世話(時期に応じた世話について学習)

9月・・・キビの穂を収穫、穂の天日干し、粒取り(収穫の喜びを体験)

11月・・・唐箕がけ、脱穀(昔の道具の便利さを学習)

1月・・・寒ざらし、石臼で製粉(昔の人の苦労を体験)

(2) ボランティアの活用

種まきから収穫までの一連の活動で、地域の方にボランティアを依頼した。上手に栽培するには、害虫駆除やわき芽とりなどのコツがあり、「キビ名人」の知恵を学ぶことで野菜作りの難しさと楽しさにふれることができた。



(3) 地域の施設との連携

唐箕や石臼、精米機などの昔の道具を地域の施設から借用し、実際に道具を使って活動を行った。また、地域の製粉所に行き、大きな製粉機を使ってさらに細かい粒子にする様子を見学した。児童は手作業と比較して道具や機械の便利さに気づくことができた。

(4) 地域の人や保育園児との交流

10月にキビの生長過程を劇化し、全校生や地域の方の前で発表した。児童は観察カードをもとに、分かりやすく伝える工夫をした。また、2月には、でき上がったキビ粉をキビ団子に調理し、招待した保育園児と交流しながら食べる体験をした。

成果と課題

- ・1年間を通じて児童は栽培から収穫、調理まで関わることができ、野菜作りの苦労や農家の人の知恵に気づくことができた。また、地域の方の温かさにふれ、地域の人への感謝の気持ちをもつことができた。
- ・今後、地域の豊かな資源(ヒト、モノ、コト)を活用して、児童が主体的に活動に取り組めるように、情報収集や体験活動の工夫をしていくことが大切である。